

評価のポイント

CL-1.専門的、倫理的、法的な実践能力

[97-1] 個人情報保護とヒューマンエラーの予防（事例提示と検討）

1. 個人情報保護：講義で提示した事例1において、個人情報を漏洩させないようにするために、どのようにすると良いでしょうか。まだ、専用のUSBメモリは導入されていません。

2. ヒューマンエラー：次の事例において、なぜエラーが発生したか要因と対策を考えましょう。

<事例>

看護師Aは患者XにKCL1キットを生食100mlに溶解したものを投与する指示をリーダー看護師と確認した。看護師Aは患者Xを受け持つのは初めてで面識はない。KCLと生食のミキシングは終了。投与前、担当の患者Zが体調不良でデイルームに臥床していた。バイタルサインの測定やリーダーへの報告で10分程度対応。その後、患者Yへ投与するものと思い込み、患者Yの病室へ持参した。投与速度が3時間のため、輸液ポンプの準備で一旦病室を離れた。輸液ポンプを持参した際、病室を離れる前にPDAで確認したと思い込んだ。中心静脈ラインから40ml/時で投与開始した。投与時、他の看護師がおらず、ダブルチェックはできなかった。30分後にペアの看護師が気づき、投与は中止となった。

個人情報の保護には、部署内だけでデータを取り扱う、紙面媒体で印刷したものは、部署内の施錠ができる場所で保管する、紙面においては、個人情報（氏名、年齢など）は黒塗り、または切り取るなどして閲覧できないようにする。ヒューマンエラーの人間的な問題として思い込みや不注意、途中で2度、投与実施の中断があった、患者の容体など情報の変化があり対応を迫られたなどがある。対策としては中断したら前の工程に戻って確認する、人間は思い込むことがあると理解して行動する。システムの問題としてはダブルチェックを怠った、PDAチェックを怠ったなどがある。対策としてはひとり法のダブルチェックを実施する。